広報 おうしゅう
Vol.138 2017 8
□発行日／8月10日　□発行／奥州市　〒023－8501 奥州市水沢区大手町1－1　□電話／0197－24－2111　□編集／総務企画部政策企画課　□印刷／あべ印刷㈱

Oshu Heritage

奥州遺産

～ときを越え受け継がれるもの～

No. 83

鳴石神社

＝江刺区広瀬字七日市＝

鳴石神社は音石権現社とも呼ばれ、県道沿いの音石神社から、北に500㍍ほどの山中にある。神社内には男石、女石、枕石、座頭石、獅子石の五つの名石があり、小石で打つと金属音を発して鳴ることから「鳴石」の名がついたという。

周辺の「軽石」という地名も、この石にまつわる伝説が由来と安永風土記※では伝える。かつて、この地を訪れた佐藤秀衡が、庭園の石にしようと男石を運ばせたが100㍍ほどで動かなくなり、女石や枕石を慕って鳴り出したので放置したところ、どこからか現れた貞春という座頭が石を軽々と運んで元の場所に戻したために、この地を軽石村と名付けたというのだ。

名石五つに跡附石、枇杷箱石を加え七つ石と称したともいうが、周辺の整備に伴い四つは姿を消した。今は男石、女石、枕石を残すのみである。

※原文ままで。平泉の藤原秀衡とする説有

男石、枕石の２つは市の指定文化財であり、保護のため石で打つことは禁じられている（右図）①男石。延文６年（1361年）銘「阿弥陀三尊種子石塔婆」。高さ273cm、幅137cm　②枕石。「金剛界大日如来種子石塔婆」。高さ97cm、幅35cm　③女石

広告

VEGETABLE OIL INK
※この広報紙は再生紙と植物油を使用しています。
※この広報紙は奥州市のホームページでもご覧いただけます。【本紙1部の印刷費用は約32円です。】